優 秀 賞

水

水戸市立第四中学校

二年 安 村 夏 奈 羽

「水」とは、人間をはじめ、生物が生きる上で欠かせないものである。水がなければ生物は干からびて死んでしまう。また、普段私達が口にする農作物や家畜を育てることに水は必要であり、洗濯や料理、入浴、掃除といった私達の日々の生活にも水は不可欠だ。私達人間は、水によってその生活を支えられていると言っても過言ではないだろう。

日本は島国で周りを海に囲まれていることもあり、水産資源が豊富にあるほか、山や森林が気候に守られ、水が豊富にある。私達は毎日水道の蛇口をひねるだけで綺麗な水を飲むことができる。しかし、それが当たり前なのだと疑いもせず暮らしてはいないだろうか。

世界的に見ると、日本のように綺麗な飲み水を簡単に得られるところは実は非常に少ない。上下水道や浄水場といった

設備が十分に普及していない国や地域は多い。水道は通っていても飲み水としての安全性は保障されていない所もあり、「飲み水が確保できる水道」が通っている国は十数カ国程度とも言われる。海外の人が日本を訪れて驚くことのひとつに、水道の水が飲めることだと言う人も多い。反対に家族が海外旅行に行った時には、水道の水が飲めないため、まずスーパーを探して水を買ったという話を聞いて私はとても驚いた。

日本には、集めた水をろ過し不純物を取り除き水を綺麗にする浄水場がある。そして、その水が水道管を通り私達の家
の蛇口までつながっているからこそ、今の私はのが渴いた時、飲みたい時に自由に水が飲める生活を送っている。しかし国が変われば水が満足に飲めない子供達はたくさんいる。川へ水を汲むために一日中歩いて学校に行く時間のない子供達や、汚れた水によって感染症がまん延し、命を落とす私とかわらない歳の子供達がいることも報道番組で目にしたことがある。世界に目を向けると、安全な水が飲めることはとても幸せで、大切にしなければならぬと私達は知ることができ
るだろう。

しかし、例え日本であっても、常に綺麗な水を利用できるわけではない。

例えば山の上では、水道設備が整っていないため水はとても貴重だ。以前、登山に行った時、山小屋には水洗トイレはなく、あるのは汲み取り式トイレ、しかも使用するにはお金を払う必要があった。また売店で売っている水も通常より高い値段だった。それは、車の通れない山の上まで重たい水を運搬しなければ手にできない貴重な水だからである。

また、台風や大地震など災害時には断水が起こることもある。私が生まれる前に起きた東日本大震災では、水戸市でも電気、ガス、水道といったライフラインが全て止まり、元に戻るまでに何日もかかったという。その間、家族は電気と水道のない生活を四日間送ったと、当時の苦労をよく話してくれる。その経験から、我が家では水道も電気も使わない日を過ごす取り組みをしている。これが、私が水を大切にすべきだと思っただけだ。

その日は、丸一日、家のなかの電気と水を全く使わないようにして生活した。水道からは水をくめないで、災害対策として買ってあったペットボトルの水を飲み、お風呂にも入れないため体をタオルで拭き、トイレは水洗レバーで流さず浴槽に溜まった水を洗面器で汲んで流した。衣類で体温調節をし、ソーラーライトや懐中電灯を使って、薄暗いなかでカ

セットコンロを使いレトルト食品を温め食べた。その時、たった一日水や電気を普段通りに使えなかっただけでこんなにも手間が増え不便なのかと実感したのだ。

日本で暮らしていると、安全な水を飲むことができるのは当たり前を感じてしまうが、それは本当はとても貴重なことなのだ。だから私達はそのことに感謝し、水を大切に使うべきだ。地球の環境を守り、水という資源を守り、大切に使う必要と責任が私達にはある。